

総合農業技術センター・試験研究課題中間評価表（再編課題）（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：作物・野菜・花き病虫害の防除技術の改善(S54～)

小課題名：薬剤に対する耐性菌及び感受性低下害虫のリスク管理（H26～）

担当者名：横内京子、國友義博

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	5 / 5	キュウリ褐斑病菌とタバココナジラミバイオタイプQについて、従来の薬剤に対する耐性・感受性低下が発生していることを示すとともに有効な薬剤を提示しており、研究の進捗度は高い。
2 研究内容の妥当性	4 / 5	これまで2つの小課題で実施してきたが、現在最も重要なのは薬剤耐性菌・感受性低下害虫への対策であり、この問題に絞って課題を統合するのは妥当と考えられる。
3 研究成果の期待度	4 / 5	薬剤耐性菌や感受性低下害虫が発生するより前からリスク管理を行い、問題の発生に対し迅速な対策がとれるよう期待する。とくに減農薬を求められているものにこの成果が生かされると有利販売につながる。
4 研究継続の必要性	5 / 5	同系統の薬剤を使い続ける限り、薬剤耐性菌・感受性低下害虫の問題は恒に存在するので、研究継続の必要性は高い。とくに難防除病虫害の防除技術の改善を中心に検討してほしい。
総合評価	5 / 5	キュウリ褐斑病菌とタバココナジラミバイオタイプQについて有効な薬剤と防除法を成果情報として提示し、薬剤の選択等に貢献していることは評価できる。今後、主要品目の生産現場において、薬剤耐性や感受性低下が疑われる病虫害を対象に試験を行い、事前に有効な薬剤を選定するとともに、薬剤耐性・感受性低下が起こりにくい防除法についても検討してほしい。また、他県の試験研究機関との情報交換・共有に努める必要がある。

試験研究機関の処置

薬剤感受性検定試験の継続実施により、薬剤耐性・感受性低下病虫害の発生を未然に抑える対策および緊急的な問題への迅速な対応に取り組んでいく。この中で有効薬剤の選定およびその使用方法の検討により、薬剤耐性・感受性低下が起こりにくい防除法や難防除病虫害の防除改善の確立に務めていく。また他県や国の試験研究機関との情報交換・共有に努め、問題となりそうな病虫害の早期発見や薬剤感受性検定方法の効率化等につなげたい。

